

# チャノキイロアザミウマ情報第1号

令和6年4月24日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

ブドウ、カキの防除適期が早まる可能性があります。  
発生状況に注意し、防除しましょう。

## 1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月10日から16日です（表1）。現時点で今年のチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、前年並から前年と比べ4日遅いと予測します。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（4月24日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎
第1世代	5/15	5/16	5/10	5/11	5/14	5/14
（前年）	5/14	5/12	5/7	5/8	5/12	5/13
前年差	1日遅	4日遅	3日遅	3日遅	2日遅	1日遅
第2世代	6/12	6/15	6/7	6/7	6/12	6/13
	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武	
第1世代	5/10	5/12	5/15	5/12	6/9	
（前年）	5/9	5/10	5/15	5/10	6/7	
前年差	1日遅	2日遅	±0	2日遅	2日遅	
第2世代	6/9	6/11	6/13	6/11	7/7	

各地のアメダス平均気温から予測。

4月23日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

気象庁が提供している1か月予報気温の確率予測資料（地点：名古屋）によると、4月20日から5月17日の期間での予測値は、平年値からプラス1.4℃とされています。これを考慮した場合、本虫の発生ピークは表1の予測日より稲武で6日、その他の地点で2日から3日早くなる可能性があります。今後の気温の推移や本虫の発生状況に注意してください。

なお、5月1日発表予定の「令和5年度病害虫発生予報第2号（5月）」に、最新の気温データを基にした発生ピーク予測日を掲載しますので、参考にしてください。（<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）

## 2 防除対策

ブドウでは、例年5月上旬頃から成虫の飛来があり（図）、カキでは開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。例年発生の多いほ場では、第1世代成虫の発生ピーク時期に表2の薬剤などで防除しましょう。

また、防風用に植えているイヌマキやサンゴジュなどは、本種の発生源になりますので、これらの発生状況にも注意しましょう。

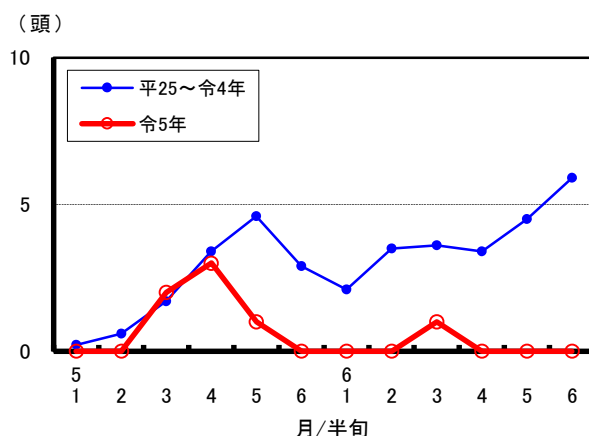


図 東浦町（ブドウ）の黄色粘着板におけるチャノキイロアザミウマの誘殺状況  
（平成25～令和4年の平年値及び令和5年のデータ）

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤

作物	薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	IRACコード
ブドウ	コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫60日前まで	2回以内	散布	13
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	散布	4A
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	散布	9B
カキ	バダンSG水溶剤(※)	カルタップ	収穫45日前まで	4回以内	散布	14
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	散布	9B

※樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、

[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf) を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。